

オリジナル紙芝居『ゆうたくんとイヌワシ』を用いた環境教育活動

東垣大祐・伊藤波輝・大谷直寛・北村胡桃・柴田理沙・長尾歩実・花谷和志
奥平夏海・古門優衣・坂口友理・櫻井杏子・溝口侑希・山内かれん
中村晃大・中村こころ・藤城美穂
(兵庫県立大学環境人間学部 EHC 学生団体「いきものずかん」)

はじめに

現在、さまざまな野生生物が絶滅の危機に瀕していますが、そのひとつに大型の猛禽類であるイヌワシという鳥がいます。日本でもかつては多くのイヌワシが生息していましたが、森林環境の変化などによって生息数が減ってきています。この兵庫県にも生息していますが、やはり数は減っています。そこで、紙芝居という形で子どもたちにイヌワシの存在、現状を知ってもらい、少しでも興味を持ってもらいたいということで、第11回共生のひろばにて、NPO 法人人と自然の会かわせみの会のメンバーの方から声をかけていただき、オリジナル紙芝居『ゆうたくんとイヌワシ』を作成することになりました。

紙芝居制作

イヌワシの紙芝居を作ることになりましたが、私たちにはイヌワシに関する知識が全くと言っていいほど無かったため、イヌワシの勉強をする機会を設けていただきました。かわせみの会の皆様との話し合いに始まり、人と自然の博物館の布野隆之先生のセミナー、そして兵庫県北部の新温泉町にあるイヌワシの生息地である上山高原にも連れて行っていただきました。イヌワシを見ることはできませんでしたが、イヌワシがどういう環境を好むのか実際に見ることができました。また現地にずっと住んでおられる方のお話も聞く機会もあり、イヌワシが多く生息していた当時の環境も知ることができました。



兵庫県新温泉町上山高原

紙芝居の制作は話を作ることが得意なメンバー、絵を描くことが得意なメンバーが中心となり、話の内容、ストーリー、絵など、かわせみの会の皆様、布野先生にアドバイスをいただきながら、ほぼすべてをいきものずかんで制作しました。

活動報告

2016年のドリームスタジオフェスタにてお披露目をして以降、多様な場で活用することが出来ました。例えば大学祭や児童館、保育園、放課後スクールにバードウォッチングなどイベントでの使用が

挙げられます。変化や工夫としては、クイズの内容を充実させ、聞き手となる子どもの年齢によって難易度を変更するようにしました。また物語の言葉遣いも何度も再考しました。パワーポイントを用いる際には、いただいたご意見を参考に紙の紙芝居に似せてスライドをめくる際横にスライドするようにしました。

実際に、放課後スクールで紙芝居を聞いた小学校低学年の子どもたちの感想文には、イヌワシや絶滅危惧種のことが学べたと言ってもらえることが出来ました。

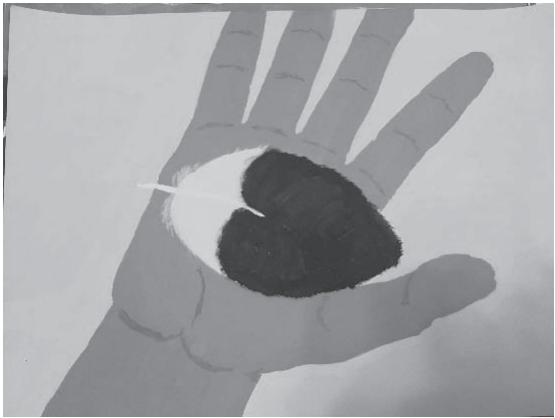


これから

現在、前述の通りこの紙芝居は児童館や放課後スクール、バードウォッチングのイベントなど、様々な場で活用されるようになりました。しかし『ゆうたくんとイヌワシ』はこれで完成ではなく、よりよい紙芝居になるように多くの方の意見を聞き、改良し、そして、兵庫県にもイヌワシがいるということを知ってもらうように、読み聞かせの場を増やしていきたいと考えています。

最後に、紙芝居制作の際にはNPO 法人人と自然の会かわせみの会の皆様、布野隆之先生をはじめとした多くの方に、アドバイスや学習の機会をいただきました。関わってくださった皆様、ありがとうございました。今後ともご助力をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。





『ゆうたくんとイヌワシ』（一部）